
 学 会 記 事

第 41 回新潟高血圧談話会

日 時 平成 18 年 7 月 28 日 (金)
午後 6 時 30 分～8 時 30 分
場 所 新潟大学有壬記念館
2 階大ホール

I. 一 般 演 題

1 仮面高血圧の治療について

演 齊

木戸病院内科

1. はじめに

2002 年 Pickering が, 外来高血圧が 140/90 mmHg 未満であるのに ABPM で覚醒時の血圧の平均値が 135/85mmHg 以上の症例を仮面高血圧と呼称した。仮面高血圧は, 正常血圧や白衣高血圧に比べて, コントロールされていない高血圧と同様に予後不良である。

高血圧治療中の患者の中で仮面高血圧の頻度と対策について検討したので報告する。

2. 対象

木戸病院高血圧外来に通院中の患者で, 1 年間の外来血圧の平均値が 140/90mmHg 未満で, ABPM の施行に同意された 202 名を対象とした。

3. 結果

Ca 拮抗薬, ACE 阻害薬, ARB の単独治療では 62～77% の症例で仮面高血圧を呈した。

降圧薬二種類による併用療法でも 35.1% が仮面高血圧であった。作用機序の異なる降圧剤三剤の併用でも 47.1% が仮面高血圧であった。

Ca 拮抗薬投与 12 例で β -遮断薬の併用による仮面高血圧の頻度の変化を検討したところ, Ca 拮抗薬単独投与では 12 例中 11 例 (91.7%) が仮

面高血圧であったが, β -遮断薬の併用により, 12 例中 4 例 (33.3%) に仮面高血圧は減少した。

ABPM を施行した症例中 Ca 拮抗薬と β -遮断薬との併用例は 59 例で, そのうち 18 例 (30.5%) が仮面高血圧であった。

4. 考察

仮面高血圧は日常生活におけるストレスや喫煙が原因とされている。

β -遮断薬はストレスによる血圧の上昇や運動による血圧の上昇を抑制するので, β -遮断薬が仮面高血圧の減少に寄与したものと考えられる。

今回の検討では, 他の降圧剤の併用療法の効果を十分に検討できなかったため, 今後その検討を行ってみたい。

5. まとめ

高血圧治療は 24 時間を通じての降圧が必要だが, 降圧薬の単独投与では 70% 前後が仮面高血圧を呈していた。ABPM のチェックが重要であることが明らかにされた。

仮面高血圧の治療として, Ca 拮抗薬と β -遮断薬の併用が望ましい。

2 GABA 含有飲料水と血圧について

渡辺 賢一・井上 幹雄・中野るりこ

文 娟・国崎 恵・水戸沙耶佳

馬 梅蕾・プニヤコッティ T.V.

ナラシマン G.・スレシュ P.S.・パラス P.

ワヘッド M.I.・ファデア K.A.・リヤド A.E.

ベナム H.・平山 匡男*・小林 隆司**

小山 博史**・神田 光雄***

山口 賢一****

新潟薬科大学大学院薬学系研究科臨床薬理学教室

同 応用生命科学部食品科学科機能性食品開発研究室*

東京大学大学院医学系研究科クリニカルバイオインフォマティクス研究ユニット臨床情報工学部門**

有限会社ヤスタヨーグルト***

新潟大学医歯学総合研究科内部環境医学講座****

【目的】 γ -aminobutyric acid (GABA)・リンゴ酢

含有飲料水「顆糖熟（かとなーる）[®]」の血圧に及ぼす作用と安全性を検討した。

【方法】対象は、正常血圧者（収縮期血圧 130 mmHg 未満かつ拡張期血圧 85mmHg 未満、N 群、8 名）と未治療正常高値血圧者（収縮期血圧 130 - 139mmHg または拡張期血圧 85 - 89mmHg）・軽症高血圧患者（収縮期血圧 140 - 159mmHg または拡張期血圧 90 - 99mmHg）の H 群（10 名）のボランティア計 18 名（男/女 = 13/5、平均 46 ± 3 歳）である。1 本 90ml に GABA 70mg 含有する飲料水「顆糖熟[®]」を 1 日 1 本 12 週間摂取し、2 週間毎に血圧・血液生化学・尿を検査した。

【結果】診察所見・自覚所見で有害事象は見られなかった。N 群では摂取による血圧の有意な変化は見られなかった（収縮期血圧 118 ± 3mmHg から 113 ± 4mmHg）。H 群では、摂取 6 週目から血圧低下が見られ、開始日（収縮期血圧 136 ± 2mmHg）と比較して 10・12 週目に有意な低下が見られた（収縮期血圧 129 ± 3・128 ± 4mmHg、両 $p < 0.05$ ）。興味深いことに、摂取中止 2 週間後は更に血圧が低下し（126 ± 3mmHg、 $p < 0.05$ ）、中止 4 週間後に血圧が上昇してきて摂取前と差が見られなくなった（130 ± 4mmHg）。摂取による血液生化学・尿検査の異常変化は見られなかったが、血糖値・GOT・ γ -GTP・LDH の有意な低下と総コレステロール値の低下傾向が見られた。

【総括】GABA 含有飲料水「顆糖熟[®]」は正常高値血圧者・軽症高血圧患者で緩やかに血圧を降下させ、安全性が高いことが示唆された。

II. 特別講演

情動の自律神経出力経路と神経性血圧調節（防衛反応と基礎血圧の維持におけるオレキシンの役割）

千葉大学大学院医学研究院

先端応用医学研究部門

先端応用医学講座分子統合生理学 教授

桑木 共之

血圧のホメオスタシスを維持する延髄内の神経回路については過去 20 年の間に研究が飛躍的に進んだが、その基本回路を上位中枢から修飾・制御する神経回路に関しては未だに不明の部分が多い。医学・医療の究極の目的である「生活の質の向上」という観点からも、安静時の血圧調節だけでなく、運動・ストレス・情動などによる血圧調節機構を解明する必要がある。オレキシンは 1998 年に発見された神経ペプチドであるが、その細胞体は、防衛反応解発部位として古くから知られていた視床下部後部に限局して存在する。そこで、オレキシンがストレス防衛反応に関与している可能性を、2 種のオレキシン欠損マウス、すなわち、プレプロオレキシンノックアウトマウスとオレキシンニューロン破壊マウスとを用いて調べた。まず、麻酔したマウスの視床下部を刺激した時に引き起こされる血圧・心拍数・換気量・骨格筋血流量の増加と脳波の速波化を比較したところ、両マウスとも、対照野生型マウスよりも有意にその反応が減弱していた。防衛反応時には動脈圧受容器反射が抑制されるが、この抑制も減弱していた。さらに無麻酔のマウスを用いて、より生理学的な刺激である縄張り侵入者の同居や空気ジェット暴露を行ったところ、やはり血圧・心拍数・運動量の増加が減弱していた。ストレス誘発鎮痛も減弱していた。野生型マウスではストレスによってオレキシン神経が活性化されることも、c-fos 発現を指標にした免疫組織染色法によって確認された。研究の過程でオレキシン欠損マウスは無刺激の安静時にも基礎血圧が低値を示すことが明らかになったので、その理由を薬理的に検討したところ、血管収縮性交感神経運動が安静時において